

1-5 インド学仏教史

研究・教育活動の概要と特色

本研究室の伝統は「インド学仏教史」という呼称に体现されている。後藤は古・中期インドアーリヤ語文献（ヴェーダ語，サンスクリット，パーリ語など）を，インド・イラン共通時代，さらにはインド・ヨーロッパ祖語時代をも考慮に入れて研究している。この方面においては今日世界に誇る拠点といえる。桜井は，研究室の伝統を受け継ぎ，インド，チベットのタントラ仏教を中心に未開拓の分野の解明に努め，さらに，仏教の展開を初期仏教から辿って跡付けている。2007年4月に赴任した吉水は，本研究室におけるインド哲学研究の伝統を新たな角度から復興し，初期中世のヒンドゥー教興起の時代に司祭階級（バラモン）が，ヴェーダの伝統の継承と他学派との論争を通じて，人間の認識能力と行為規範をどのように考えたかを解明している。

本研究室は「インド学仏教史」をその歴史的展開の両端から探求してきた。ヴェーダ研究はインド学をその創成期からリードしてきた（我が国には必ずしも根付いていなかった）分野，密教研究は本研究室が先鞭をつけ国内外で最近特に盛んな分野と言う意味でも，軸の両端である。厳密な原典研究，文献学を骨格とし，儀礼，宗教，思想などを扱う。ヴェーダの宗教とインド密教との間には時代の隔たりを超えて連なる要素があり，インド哲学研究を専門とする吉水が赴任したことで，古代から中世にかけてのインドの宗教と文化に見られる様々な繋がりを共同で研究することが可能になった。

後進が育ちつつある分野は，アヴェスタ，ヴェーダ文献を中心とする文法，祭式，思想，ウパニシャッドから仏教興起時代へ懸けての宗教・思想，古典期の古い文献，初期仏教，インド・チベット仏教の儀礼と思想などであり，国内外の専門家と協力して研究を進めている。

宗教学専攻分野と協同運営する「印度学宗教学会」は，文献研究の方法・成果を宗教学，民俗学，民族学と相互検証する機会として機能している。言語研究の面でも言語学専攻分野と協力することで本大学院の特長を活かしている。

I 組織

1 教員数（2008年4月現在）

教授：2

准教授：1

助教：0

教授：後藤敏文、桜井宗信

准教授：吉水清孝

2 在学生数（2008年4月現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生	科目等履修生
4	1	3	6	0	0

3 修了生・卒業生数（2004～2008年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)	博士学位 授与者
04	2	3	1	1
05	1	1	2	1
06	1	2	1	1
07	2	0	1	1
08	1	1	2	2
計	7	7	7	6

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2004～2008年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
04	1	0	1
05	1	0	1
06	1	0	1
07	1	0	1
08 (9月まで)	2	0	2
計	6	0	6

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

林 能輝，2004年度，「*Bṛhadāraṇyaka Upaniṣad* 第1巻 一校訂テキスト，翻訳，分析と研究一」（課程博士）

審査委員：教授・後藤敏文（主査），教授・桜井宗信、教授・千草眞一
藤本 有美，2005 年度，「初期仏教僧団における雨季定住生活後の衣作成制度
の研究」（課程博士），

審査委員：教授・後藤敏文（主査），教授・桜井宗信，教授・鈴木岩弓
スダン シャキヤ，2006 年度，「*Nāmasaṃgīti* の研究 —Mañjuśrīkīrti 著 *Ārya-
mañjuśrīnāmasaṃgīṭīkā* を中心に—」（課程博士），

審査委員：教授・桜井宗信（主査），教授・後藤敏文，教授・鈴木岩弓
笠松 直，2007 年度，「火の礼拝—*Maitrāyaṇī Saṃhitā* I 5, 1–14 訳注研究—」
（課程博士），

審査委員：教授・後藤敏文（主査），教授・桜井宗信，教授・鈴木岩弓，
准教授・吉水清孝

菊谷竜太，2008 年度，「ジュニャーナパーダ流に関する文献学的研究 —
Dīpaṃkarabhadra 著 *Guhyasamājamaṇḍalavidhi-Sārdhatriśatikā*, 前段階の奉仕
儀軌 (*pūrvasevāvidhi*)，テキスト校訂・訳註研究—」（課程博士），

審査委員：教授・桜井宗信（主査）、教授・後藤敏文，教授・鈴木岩弓，
准教授・吉水清孝

倉西憲一，2008 年度，「ヤマーリ文献の研究—*Kṛṣṇayamāritantra* を中心に—」
（課程博士），

審査委員：教授・桜井宗信（主査）、教授・後藤敏文，教授・鈴木岩弓，
准教授・吉水清孝

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
04	6	0	1	0	7
05	7	1	0	0	8
06	6	0	0	0	6
07	4	0	0	0	4
08	8	2	0	0	10
計	31	3	1	0	35

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
04	0	7	0	0	7
05	0	6	2	2	10
06	3	1	0	0	4
07	0	11	0	0	11
08	1	7	0	0	8
計	4	32	2	2	40

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

井田克征 「ヒンドゥータントリズムにおける成就法—*Nṣa* に見られるシュリー
ーチャクラを用いた実践について」『比較思想研究』(別冊 31), 2004 年.

井田克征 「タントラ文献に見られるアルグヤ儀礼について」『印度學佛教學
研究』第 53 巻第 1 号, 2004 年.

井田克征 「ヒンドゥータントリズムにおけるチャクラプージャー」『宗教研
究』79(3), 2005 年.

井田克征 「クールマチャクラについて」『論集』33, 2006 年 12 月.

尾園絢一 「*Pāṇini-Sūtra* 3.1.123 に挙げられるヴェーダ語の *gerundive* 語形に
ついて」, 『印度学仏教学研究』第 54 巻第 2 号, 2006 年 3 月.

尾園絢一 「The Vedic intensive forms found in *Pāṇini-Sūtra* : the problem of some
nipātana-forms」『印度学仏教学研究』第 56 号, 2008 年 3 月.

Sunao KASAMATSU “On the Inflexion and its Transition of OInd. *śīras-/śīrṣān-*, n.
‘head’”, 『印度学仏教学研究』第 52 巻第 2 号, 2004 年.

笠松直 「Veda 文献における *saṁ-sarj/srj* の語義について」, 『印度学仏教学
研究』第 54 巻第 2 号, 2006 年 3 月.

笠松直 「「祭火の礼拝」とその義務」『印度学仏教学研究』第 56 巻第 1
号, 2007 年 12 月.

熊谷孝司「占術文献における予兆に対する鎮静法について」, 『印度學佛教
學研究』第 53 巻第 2 号, 2005 年 3 月.

Ken'ichi KURANISHI “A Study on the relationship between the *Kṛṣṇayamāritantra*

- and the *Raktayamāritantra*”, 『インド学諸思想とその周延 佛教文化学会十周年 北條賢三古稀記念論文集』(山喜房仏書林) pp. 61–68, 2004 年.
- Ken'ichi KURANISHI “*Śrīdhara and his works on the Yamāri cycle*”, 国際密教学会 *Progress*, 高野山国際密教学会、高野山大学, 2007 年.
- 菊谷竜太 「ジュニャーパードの『四滴』について」, 『仏教学』第 50 号, 2008 年度内刊行予定.
- スダン・シャキヤ 「『文殊真実名義経』について —ネパール仏教界における位置付け—」, 『善通寺教学振興会紀要』第 9 号, 2004 年.
- スダン・シャキヤ 「*Mañjuśrīkīrti* 釈を中心とする *Nāmasaṃgīti* の一考察」, 『仏教学』, 第 46 号, 2004.
- スダン・シャキヤ 「『文殊真実名義経』の読誦について」, 『善通寺教学振興会紀要』第 10 号, 2005 年.
- スダン・シャキヤ “A study of the *Āryamañjuśrīnāmasaṃgītiṭīkā* of *Mañjuśrīkīrti* — Focusing on its textual characteristics —”, 国際密教学会 *Progress*, 高野山国際密教学会、高野山大学 2007 年.
- スダン・シャキヤ 「ネパールに生きる密教儀礼について-法界語自在マンダラ儀礼の調査報告-」, 『密教資料研究紀要』第 10 号, 2008 年 3 月.
- スダン・シャキヤ 「仏教文献に見られる文殊の解釈の展開について」 *The Proceedings of the 2008 Korean Conference of Buddhist Studies*, May 2008.
- スダン・シャキヤ 「スヴァヤンブー仏塔と『ナーマサンギーティ』をめぐって」, 『現代密教』第 19 号, 2008 年.
- スダン・シャキヤ 「ナーマサンギーティ文殊」の図像と典拠についての一考察」, 『密教図像』第 27 号, 2008 年 (原稿提出済み、掲載予定) .
- スダン・シャキヤ 「ネパールの巡礼祭ディーパンカー・ヤートラーについて」, 『善通寺教学振興会紀要』第 13 号, 2008 年.
- Sudan SHAKYA “A study of the *Āryamañjuśrīnāmasaṃgītiṭīkā* of *Manjusrikirti*: Focusing on its textual characteristics” *Proceedings of the International Conference on Esoteric Buddhist*, March 2008.
- スダン・シャキヤ 「『ナーマサンギーティ』と「法界語自在にマンダラ」について」, 『密教学研究』第 40 号, 2008 年 3 月.
- 中村隆海 「*Atharvaveda* XIII 2,2」, 『印度學佛教學研究』第 54 卷第 2 号, 2006 年 3 月.
- 中村隆海 「*Veda* 文献における *pra-√jñā* の語義と用法」 『松濤誠達先生古稀

記念梵文学研究論集』松濤誠達先生古稀記念会（編），pp. 111-137 所収，大祥出版，2007.

西村直子「月と神々の食物－*Śatapatha Brāhmaṇa* I 6,4（新月祭の *Upavasatha*）」，『論集』34号，2007年.

藤本有美「パーリ律 *Nissaggiya 28* と雨季定住生活後の布の贈与について」，『印度学仏教学研究』第104巻第2号，2006年3月.

松森大樹「五相現等覚に見られる唯識思想に基づく行法について－*Ratnākaraśānti* 著 *Rahaṅgradīpa* の記述を中心に－」，『論集』第31号，2004年.

松森大樹「*Caryāmelāpakapradīpa* に見られる *Subhāṣitasamgraha* の引用について」，『印度学仏教学研究』第56巻第2号，2008年3月.

山田智輝「*vāstavyā-*, *vāstuhá-*, *vāstupá-*－置き去りにされた居住地 に関する記述を巡って－」，『論集』第32号，2006年3月.

（２）口頭発表

井田克征「タントラ文献に見られるアルグヤ儀礼について」第55回日本印度学仏教学会学術大会，2004年.

井田克征「ヒンドゥータントリズムにおける成就法」比較思想学会北陸支部第15回研究大会，2004年.

井田克征「*Kūrmacakra*について」第49回印度学宗教学会学術大会，大正大学，2006年6月.

井田克征「ヒンドゥータントリズムにおける酒」第58回日本印度学仏教学会学術大会，四国大学，2007年9月.

尾園絢一「*Pāṇini-Sūtra* 3.1.123 に挙げられるヴェーダ語の *gerundive* 語形について」，印度学宗教学会第48回学術大会，2005年5月29日.

尾園絢一「*Pāṇini-Sūtra* 3.1.123 に挙げられるヴェーダ語の *gerundive* 語形について」，日本印度学仏教学会第56回学術大会，2005年7月29日.

尾園絢一「*Pāṇini* が挙げるヴェーダ語形 *dādharti*, *dardharti*, *dadharṣi*」，第50回印度学宗教学会，関西大学，2007年6月9日.

尾園絢一 「*Pāṇini-Sūtra*に見られるヴェーダ語の *intensive* 語形について」, 第 58 回日本印度学仏教学会, 四国大学, 2007 年 9 月 4 日.

笠松直 「Veda 文献における *sam-sarj* の語義について —獲得物分配の文脈における用法—」, 印度学宗教学会 第 54 回学術大会, 2005 年 5 月 29 日.

笠松直 「Veda 文献における *sam-sarj/srj* の語義について」, 日本印度学仏教学会 第 56 回学術大会, 2005 年 7 月 29 日.

笠松直 「MS I 5,7 「晩と早朝の「祭火の礼拝」」」, 印度学宗教学会 第 50 回学術大会, 関西大学, 2007 年 6 月 10 日.

笠松直 「「祭火の礼拝」とその義務」, 日本印度学仏教学会, 第 58 回学術大会, 四国大学, 2007 年 9 月 4 日.

笠松直 『マヌと五人の息子たち』印度学宗教学会 第 51 回学術大会 於宮城学院女子大学, 2008 年 6 月 8 日.

笠松直 「*Maitrāyaṇīśaṃhitā* 「祭火の礼拝」章の構成について」, 日本印度学仏教学会 第 59 回学術大会, 愛知学院大学, 2008 年 9 月 4 日.

熊谷孝司 「*Atharvaparīśiṣṭa* と *Bṛhatsaṃhitā* の予兆に対する鎮静法について」, 日本印度学佛教学会, 2004 年.

Ken'ichi KURANISHI "Śrīdhara's works on the Yamāri cycle", Proceedings of the International Conference on Esoteric Buddhist (国際密教学会), 高野山大学, 2006 年 9 月 6 日.

倉西憲一 「ヤントラ考 —ヤマール文献を中心に—」, 仏教思想学会, 於東京大学, 2008 年 7 月 5 日.

Ryuuta KIKUYA "Bhadrapāda's utpattikrama theory", Proceedings of the International Conference on Esoteric Buddhist (国際密教学会), 高野山大学, 2006 年 9 月 6 日.

菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流における金剛念誦次第」, 仏教思想学会, 鶴見大学, 2007 年 6 月 30 日.

菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流の四支成就法 (*caturāṅgasādhana*) について」, 密教研究会平成 20 年度学術大会, 2008 年 7 月 18 日.

菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流の究竟次第をめぐって」, 日本印度学仏教

- 学会第 59 回学術大会，愛知学院大学，2008 年 9 月 5 日。
- スダン・シャキヤ 「*Nāmasaṅgīti* の思想について」，佛教思想史学会第 20 回学術大会，2004 年 6 月 26 日。
- スダン・シャキヤ "A study of the *Āryamañjuśrīnāmasaṅgīṭikā* of Mañjuśrīkīrti —Focusing on its textual characteristics —", Proceedings of the International Conference on Esoteric Buddhist (国際密教学会)，高野山大学，2006 年 9 月 5 日。
- Sudan SHAKYA "The Iconography of *Nāmasaṅgīti-Mañjuśrīn* Nepal The 3rd International Congress of Cultural Atlases (ECAI) Russian Academy of Science, Moscow", 2007 年 5 月 30 日。
- スダン・シャキヤ 「『ナーマサンギーティ』と「法界語自在マンドラ」について」日本密教学会，東京，2007 年 10 月 13 日。
- スダン・シャキヤ 「ナーマサンギーティ文殊」の図像の典拠とその用例をめぐって」，密教図像学会，法楽寺，大阪 2007 年 12 月 16 日
- Sudan SHAKYA "The interpretation of the Mañjuśrī in the Buddhist Tantric literatures"，Korean Association of Buddhist Studies, Dongguk University, Seoul, 2008 年 5 月 18 日
- 竹内耕太「古インドアーリヤ語動詞語根 *mad* 「酔う」と *mand* 「酔わせる」再考」，印度学宗教学会第 47 回学術大会，2004 年 6 月 5 日。
- 中村隆海「*Atharvaveda* XIII 2,2」，日本印度学仏教学会第 56 回学術大会，2005 年。
- 中村隆海「*prajñā*- 前史 -ヴェーダ文献におけるその用法と語義の史的変遷-」第 48 回智山教学大会，2004 年。
- 西村直子 「*Śatapatha-Brāhmaṇa* における Soma 循環理論の変遷」，日本印度学仏教学会第 59 回学術大会，愛知学院大学，2008 年 9 月 4 日
- 藤本有美「パーリ律 Nissaggiya 28 と雨季定住生活後の布の贈与について」，印度学宗教学会第 48 回学術大会，2005 年 5 月 29 日。
- 藤本有美「パーリ律 Nissaggiya 28 と雨季定住生活後の布の贈与について」，印度学仏教学会第 56 回学術大会，2005 年 7 月 29 日
- 松森大樹「五相現等覚に見られる唯識思想に基づく行法について — Ratnākaraśānti 著 *Rahaḥpradīpa* の記述を中心に — 」，印度学宗教学会第

47回学術大会，2004年6月5日．

松森大樹「*Caryāmelāpakapradīpa*に見られる *Subhāṣitasamgraha* の引用について」，印度学仏教学会第58回学術大会，四国大学，2007年9月4日．

山田智輝「*vāstuhá-*と *vāstupá-* ヲヴェーダ期の移住生活における遺構に関する記述を巡って」，印度学宗教学会，於東北大学，2005年5月29日．

山田智輝「*Sarasvatī* を巡って ヲリグヴェーダを中心に」，日本印度学仏教学会第59回学術大会，愛知学院大学，2008年9月4日

3 大学院生・学部生等の受賞状況

西村直子 第50回印度学宗教学会学会賞（2007年6月）

スダン・シャキャ 第41回日本密教学学会賞（2008年10月）

4 日本学術振興会研究員採択状況

2005年度，DC，採用，1名．

2005年度，PD，受け入れ，1名．

2008年度，PD，採用，1名．

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2008年度 大学院 ハンブルグ大学 ドイツ

5-2 留学生の受け入れ状況

年度	学部	大学院	計
04	0	1	1
05	0	1	1
06	0	1	1
07	1	0	1
08	1	0	1
計	2	3	5

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
04	0	0	0
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	0	0	0
計	0	0	0

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

堂山英次郎 (D 2002 修了), 大阪大学大学院文学研究科専任講師, 2004 年.

林隆継 (D 2003 単位取得退学), 仙台電波工業専門学校総合科学科助教授 (准教授), 2005 年.

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2004 年度 外務省北米局日米地位協定室 1 名

2005 年度 国際交流基金 1 名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物 (専攻分野刊行のもの)

『論集』 (宗教学専攻分野と共催する印度学宗教学会の機関誌) 毎年刊行

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2004 年度

- ・印度学宗教学会事務局 (宗教学専攻分野と共同)
- ・印度学宗教学会第 47 回学術大会, 高野山大学, 2004 年 6 月 5-6 日

2005 年度

- ・東北大学大学院文学研究科シンポジウム「宗教の諸相 一多神教と一神教」,

2005年2月5日開催（延べ400人を越える聴衆を集めた）

講演：山折哲雄・国際日本文化研究所長，M. ヴイツェル・ハーヴァード大学教授

公開討論：上記二名に加え，山形孝夫・宮城学院女子大学名誉教授，手島勲矢・大阪産業大学教授，長田俊樹・総合地球環境学研究所教授，後藤敏文・東北大学教授

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・印度学宗教学会第48回学術大会，東北大学，2005年5月28－29日

2006年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第49回学術大会，大正大学，2006年6月10－11日

2007年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第50回学術大会，関西大学，2007年6月9－10日

2008年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第51回学術大会，宮城学院女子大学，2008年6月7－8日

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2004年5月19日	卒業論文・修士論文成果発表会
2004年10月29日	卒業論文・修士論文構想発表会
2005年5月12日	インド学仏教史研究室研究会
2005年10月21日	卒業論文・修士論文構想発表会
2006年11月16日	卒業論文・修士論文構想発表
2007年11月13日	卒業論文・修士論文構想発表

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

平成19年度には文学部の耐震改修工事が実施されたため，夏から冬にかけて，研究室の多くの図書・雑誌を保管先に送り，使用することができなくなってしまった。また改修工事の前後には，大量の図書を梱包し，また開封して元通りに配置するために，大学院生と学部生全員に多大な時間と労力を割いてもらわざるを得なかった。このような，かつてない厳しい環境下にあったにも拘わらず，本研究室の大学院生たちは懸命に研究を続けた。平成19年度末に1名，平成20年度初めに2名が課程博士論文を提出して

学位を取得したことは、その表れである。

現在在籍中の大学院生はヴェーダの祭式・説話、伝統文法、広義の仏教タントラ文献などを研究対象としている。ヴェーダ研究の諸相において本研究室は国際的に見ても生産的な拠点の観を呈している。2005 年度に開催した東北大学大学院文学研究科シンポジウム「宗教の諸相多神教と一神教」では、ハーバード大学より、ヴェーダ学研究で著名な M. ヴィッツェル教授を招き、延べ 400 人を越える聴衆を集めた。後藤敏文教授は、ヴィッツェル教授と共同で、注釈つきで『リグ・ヴェーダ』ドイツ語訳全 4 巻の出版を開始し、2007 年に第 1 巻を刊行した。

密教研究の分野においては、2006 年夏の「国際密教学会」（高野山大学）において 3 名の大学院生が英語で研究発表をした。地道な成果が実りつつあることを示している。国際的な密教研究の興隆とともに、益々本研究室の重みが見えて行く見通しである。

そもそも「インド学仏教史」の研究には「サンスクリット」、パーリ語、チベット語の訓練に時間と力を割くことが前提となるため、研究発表は数多くは望めない。参考文献を利用するために欧米言語の習得も必須である。博士論文には中核的テーマを正面から選ぶことが後の研究に重要であり、大学院生はこれに専念する必要がある。

以上は、本学の「インド学仏教史」の伝統の上に立つ成果であると言える。ヴェーダ文献と仏教タントラ以外の分野を補充するべく 2007 年に赴任した准教授の吉水は、主にインド哲学諸学派および中世までの時代のヒンドゥー教に関する研究教育を進めていく予定である。さらなる充実が望まれる分野としては、中世以降のインド文学と科学、唯識、中観を中心とする大乘仏教教理の研究、パーリ経典や大乘仏典そのものの研究などが挙げられる。グローバル化する国際情勢の中で、インドは独自の文化を保ちつつ経済大国化への道を歩み始めている。今後益々国際社会で注目されていくインドの文化に関して、人文科学の観点からの正確な認識を学生に与えるために、また意義ある研究成果を発表しつつも未だ定職につく機会を得ていない若手研究者を活用する意味からも、これらの分野での非常勤講師を確保することが重要である。

Ⅲ 教員の研究活動(2004 年度～2008 年度)

1 教員による論文発表等

1-1 論文

後藤敏文 「人類と死の起源 ―リグヴェーダ創造讃歌 X 72―」仏教文化学会十周年・北条賢三博士古稀記念論集『インド学諸思想とその周延』, pp.

415–432. 2004.

Toshifumi GOTŌ “Notizen zu Verben in Yasna 9 (Hom-Yašt)” *Orient* 39, pp. 122–146. 2004.

後藤敏文 「新資料 Vādhūla-Anvākyāna の伝える『Purūravas と Urvaśī』物語」
神子上恵生教授頌寿記念論集 (永田文昌堂), pp. 845–868. 2004.

Toshifumi GOTŌ “Yājñavalkya’s Characterization of the Ātman and the Four Kinds of Suffering in Early Buddhism” *Electronic Journal of Vedic Studies* 12-2, pp. 70–84. 2005.

後藤敏文 「雪が焦がす」長崎法潤博士古稀記念論集『仏教とジャイナ教』,
pp. 480–467. 2005.

後藤敏文 「ai. *ādbhuta-*, *ādabdha-*, jav. *abda-*, *dapta-*, 及び ai. *addhā*, aav. ap. *azdā*」『印度学仏教学研究』54, pp. 325–320. 2005.

Toshifumi GOTŌ “*Aśvín-* and *Násatya-* in the *Ṛgveda* and their prehistoric background” *Proceedings of the Pre-symposium of RIHN and 7th ESCA Harvard-Kyoto Roundtable*, ed. by T. Osada, pp.253–28. 2006.

Toshifumi GOTŌ “Ai. *ādbhuta-*, *ādabdha-*, jav. *abda-*, *dapta-*, und ai. *addhā*, aav. ap. *azdā*” *Indogermanica. Festschrift für Gert Klingenschmitt*, hrsg. von G. Schweiger, pp.193–212. 2006.

後藤敏文 「荷車と小屋住まい: ŚB *śālām as*」『印度学仏教学研究』55, pp.220-224.
2007.

後藤敏文 「*śraddhā-*, *crēdō* の語義と語形について」『論集』34, pp.578–638.
2007.

桜井宗信 「Vāgīśvarakīrti と Ratnakīrti—六賢門時代の密教と唯識思想の関わり—」『インド学諸思想とその周延』, 山喜房仏書林, pp.217-238. 2004.

Munenobu SAKURAI “Another Version of Prajñārakṣita’s Balividhi,” *THREE MOUNTAINS AND SEVEN RIVERS*, Motilal, pp.815-828. 2004.

桜井宗信 「Atīśa の説く〈観想上の灌頂〉」『印度学仏教学研究』第 53 巻 1 号, pp.328-334. 2004.

桜井宗信 「Prajñārakṣita 『Cakrasaṃvarābhisamaya 註』の原典研究—梵文校訂テキスト(1)—」『慈悲と智慧の世界』, 智山勸学会, pp.161-185. 2005.

桜井宗信 「Prajñārakṣita 『Cakrasaṃvarābhisamaya 註』の原典研究—梵文校訂テキスト(2)—」『マンダラの諸相と文化』(上), 法蔵館, pp.85-100. 2005.

桜井宗信 「『ナーマサンギーティ』読経から瞑想へ; 『ドゥルガティパリシ

- ヨードナ・タントラ』死者の救済と後生安楽を目指して」松長有慶編著
『インド後期密教』（上），春秋社，pp.115-160. 2005.
- 桜井宗信 「Mañjuśrīmitra の説く死者儀礼」『密教学研究』第 33 号，pp.1-14(横書). 2006.
- 桜井宗信 「〈七瑜伽(sbyor ba bdun)〉覚書」『密教理趣の宇宙』，智山勸学会，pp.(359)-(370). 2007.
- 桜井宗信 「後期インド密教における悲愍の一側面－〈完全なる悲愍〉を巡って－」，『日本仏教学会年報』第 72 号，pp.91-105(横組)，2007.
- 桜井宗信 「文殊具密流の伝える死者儀礼」，『真言密教と日本文化』，ノンブル社，pp.159-181(横組)，2007.
- 桜井宗信 「インド後期密教における葬儀と追善」，『現代密教』第 19 号，pp.135-144, 2008.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “The Dual Significance of a Periodical Sacrifice: *Nitya* or *Kāmya* from the *Mīmāṃsā* Viewpoint,” *Journal of Indian Philosophy* 32, pp. 189–209. 2004.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Notes on Kumāriḷa's Approach to the Ritual Scripture,” Sh. Hino and T. Wada (eds.): *Three Mountains and Seven Rivers. Prof. Musashi Tachikawa's Felicitation Volume*, Delhi, pp. 735–751. 2004.
- 吉水清孝 「祭式構成要素間の階層の根拠として助力 (upakāra) を説くミーマーンサー学派の異説について」『印度哲学仏教学』19, pp. 344–361. 2004.
- 吉水清孝 「「曙色」をめぐるミーマーンサー的考察」『印度哲学仏教学』20, pp. 336–363. 2005.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “The Theorem of the Singleness of a Goblet (*graha-ekatva-nyāya*) : A *Mīmāṃsā* Analysis of Meaning and Context,” M. Hattori (ed.) : *Word and Meaning in Indian Philosophy, Acta Asiatica* 90, pp. 5–38. 2006.
- 吉水清孝 「クマーリラによる定動詞接辞の表示理論について」『印度哲学仏教学』21, pp. 298–315. 2006.
- 吉水清孝 「祭式で虚偽を語ってはならないのは何のためか－一定動詞表示と文脈－」『印度学仏教学研究』第 55 卷第 2 号，pp. 814–820. 2007.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Kumāriḷa's Reevaluation of the Sacrifice and the Veda from a Vedānta Perspective,” J. Bronkhorst (ed.) : *Mīmāṃsā and Vedānta, Interaction and Continuity. Papers of the 12th World Sanskrit Conference. Vol. 10.3*, Delhi, pp.201–253. 2007.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Kumārila’s Propositional Derivation (*arthāpatti*) without Pervasion (*vyāpti*),” K. Preisendanz (ed.) : *Expanding and Merging Horizons. Contributions to South Asian and Cross-Cultural Studies in Commemoration of Wilhelm Halbfass*, Vienna, pp.315–335. 2007.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Reconsidering the fragment of the *Bṛhaṭṭīkā* on inseparable connection (*avinābhāva*),” B. Kellner, H. Krasser, H. Lasic, M. T. Much, H. Tauscher (eds.): *Pramāṇakīrtiḥ, Papers Dedicated to Ernst Steinkellner on the Occasion of his 70th Birthday*, (Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde 70), Vienna, pp. 1079–1103. 2007.

吉水清孝 「定動詞の *kāraka* 表示論証とクマーリラによるその批判について」
『論集』 34, pp. 506-522. 2007.

Kiyotaka YOSHIMIZU “The Intention of Expression (*vivakṣā*), the Expounding (*vyākhyā*) of a Text, and the Authorlessness of the Veda,” *Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft* 158, pp. 51-71. 2008.

1-2 著書・編著

後藤敏文 *Rig-Veda. Das heilige Wissen. Erster bis zweiter Liederkreis*. Aus dem vedischen Sanskrit übersetzt und herausgegeben von Michael Witzel und Toshifumi Gotō unter Mitarbeit von Eijirō Dōyama und Mislav Ježić. Verlag der Weltreligionen. 2007年9月。(後藤担当分: 167–347, 636–780, 409–412, 813–816, 825–855, 856–860, その他全般。)

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

書評

吉水清孝 「片岡啓著『古典インドの祭式行為論』」『印度哲学仏教学』19, pp. 382–383. 2004.

吉水清孝 「藤井毅著『歴史のなかのカースト』」『印度哲学仏教学』20, pp. 380–381. 2005.

吉水清孝 「西村直子著『放牧と敷き草刈り』」『印度哲学仏教学』21, pp. 375–376. 2006.

吉水清孝 「山崎元一・小西正捷編『南アジア史 1』(先史・古代), 辛島昇編『南アジア史 3』(南インド)」『印度哲学仏教学』22, 381-382頁. 2007

解説

- 後藤敏文 「インドヨーロッパ語族 ー概観と人類史理解に向けての課題点検ー」『ミニシンポジウム ユーラシア言語史の現在 2004.7.3-4 報告書 上』総合地球科学研究所(プロジェクトリーダー木下鉄也), pp. 31-74. 2004.
- 後藤敏文 「サンスクリット語」, 「輪廻」と「業」, 『人文科学ハンドブック ースキルと作法ー』, 中村捷編, 東北大学出版会, pp. 43-45, pp. 139-143. 2005.
- 後藤敏文 「コメント: 古インド=イラン語文献学から」, 『インド考古研究』26, pp. 179-191. 2005.
- 後藤敏文 「古代インドイランの宗教から見た一神教」『一神教の学際的研究 研究成果報告書』2006年度, 同志社大学一神教学際研究センター, pp. 86-111. 2007.
- 後藤敏文 「古代インドの祭式概観 ー形式・構成・原理ー」『総合人間学叢書』第3巻, 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所, pp. 57-102. 2008.
- 後藤敏文 「インドのことばとヨーロッパのことば」『ことばの世界とその魅力』人文社会科学講シリーズ III, 阿子島香編, pp. 118-163. 2008.
- 桜井宗信 「学ぶためのスキル3.外国語を学ぶ「古典チベット語」」中村捷編『人文科学ハンドブック ースキルと作法ー』, 東北大学出版会, pp.41-43. 2005.
- 吉水清孝 「クマーリラと『マハーバーラタ』の英雄たち」『北海道印度哲学仏教学会会報』21, pp. 12-15. 2007.

辞書項目

- 後藤敏文 「ヴェーダ」, 「カルマ」および「ダルマ」, 『宗教のキーワード集』三木紀人・山形孝夫編, 学燈社, 別冊国文学 No.57, 各1頁. 2004.
- 後藤敏文 「辻直四郎『インド文明の曙-ヴェーダとウパニシャッド-』」, 『宗教学文献事典』, 弘文堂, p.240. 2007.

1-4 口頭発表

- 後藤敏文 「インド・ヨーロッパ語族 ー概観と人類史理解に向けての課題点検ー」, 京都(総合地球環境学研究所), 2004年7月3日.
- Toshifumi GOTŌ “Bemerkungen zu den Verben in Yasna 9 (Hōm-Yašt)”, 12th

Congress of the Indogermanische Gesellschaft, Jagellonian University, Kraków,
2004年10月.

後藤敏文 「śraddhā- = credō『信仰』の語義と語源について」, 印度学宗教学会,
仙台(東北大学)2005年5月.

後藤敏文 「雪が焦がす」, 日本印度学仏教学会第55回学術大会, 東京(駒澤大
学), 2004年7月.

Toshifumi GOTŌ “Áśvin- and Násatya- in the *R̥gveda* and their prehistoric
background”, 7th ESCA Harvard-Kyoto Roundtable / Pre-Symposium of the
Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, 6-8 June 2005.

後藤敏文 「ai. ádbhuta-, ádabdha-, jav. abda-, dapta-, 及び ai. addhā, aav. ap.
azdā」, 日本印度学仏教学会第56回学術大会, 大阪(四天王寺国際仏教大
学), 2005年7月.

後藤敏文 「荷車と小屋住まい: ŚB śālām as」, 日本印度学仏教学会第57回学術
大会, 東京(大正大学), 2006年9月.

後藤敏文 「部族の火の東進 -『ヴェーダ』の神話, 儀礼とその歴史的背景(現実
-神話-儀礼)」第51回印度学宗教学会, 宮城学院女子大学, 2008年6月.

桜井宗信 「サンヴァラ系成就法の曼荼羅瞑想法めぐって-Aṭīśa 流儀による
「観想上の灌頂」を中心にして-」, 日本印度学仏教学会第55回学術大
会, 東京(駒澤大学), 2004(平成16)年7月.

桜井宗信 「マンジュシュリーミトラの説く死者儀礼」, 日本密教学会第38
回学術大会, 東京(真言宗豊山派宗務所), 2005(平成17)年10月.

桜井宗信 「後期インド密教における karuṇā の一側面-『七瑜伽』・『七支』
を中心にして-」, 平成18年度日本仏教学会学術大会, 日進(愛知学院大学),
2006((平成18))年9月.

桜井宗信 「文殊具密流の伝える死者儀礼」, 第51回智山学術大会, 東京(真
福寺), 2007(平成19)年5月.

桜井宗信 「Jñānapāda 流所属の「成就法」における〈五相現等覚〉について」,
第52回智山学術大会, 東京(真福寺), 2008(平成20)年5月

桜井宗信 「インド密教における儀礼と神話-悪趣救済をめぐって-」, 第51
回印度学宗教学会学術大会, 仙台(宮城学院女子大学), 2008(平成20)
年6月

吉水清孝 「クマーリラにとってのヴェーダ文の意図」, 日本印度学仏教学会

第 55 回大会（駒澤大学）, 2004 年 7 月.

吉水清孝 「テキスト解釈における意図と文脈」, 北海道印度哲学仏教会第 20 回大会（北海道大学）, 2004 年 7 月.

Kiyotaka YOSHIMIZU “The Intention of Expression (*vivakṣā*), the Expounding (*vyākhyā*) of a Text, and the Authorlessness of the Veda,” The Sanskrit and Indian Studies Department Lecture Series, Harvard University, Cambridge, USA, 2004 年 11 月.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Reconsidering the *Bṛhaṭṭikā* Fragments on *avinābhāva* and *niyama*,” 4th International Dharmakīrti Conference, Vienna, Austria, 2005 年 8 月.

吉水清孝 「「曙色」をめぐるミーマーンサー的考察」, 北海道印度哲学仏教会第 21 回大会（北海道武蔵短期大学）, 2005 年 9 月.

吉水清孝 「クマーリラによる定動詞の語尾表示理論について」, 北海道印度哲学仏教学会第 22 回大会（北海道大谷大学）, 2006 年 8 月.

吉水清孝 「祭式で虚偽を語ってはならないのは何のためか一定動詞表示と文脈」, 日本印度学仏教学会第 57 回大会（大正大学）, 2006 年 9 月.

吉水清孝 「クマーリラによるパーニニ文典 2.3.1 の解釈について」, 北海道印度哲学仏教学会第 23 回大会（苫小牧駒澤大学）, 2007 年 7 月.

吉水清孝 「祭式の中の神々—ミーマーンサー学派の立場から」, 第 51 回印度学宗教学会学術大会（宮城学院女子大学）, 2008 年 6 月

2 教員の受賞歴（2004 年度～2008 年度）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2004 年度～2008 年度）

（1）科学研究費補助金

2002 年度-2004 年度 科学研究費補助金基盤研究(C)(2), 吉水清孝（研究代表者）「インド思想における目的と手段の関係の解釈規則応用論の研究」課題番号 14510023, 1,100,000 円（2004 年度分）

2004 年度-2006 年度 科学研究費補助金基盤研究 (C), 後藤敏文（研究代表者）「古インドアーリヤ語動詞研究 —全活用形・派生語形の検証と一覧表の作成—」課題番号 16520043, 2,500,000 円(2006 年度までの 3 年間総額)

2005-2008 年度科学研究費補助金基盤研究(C), 吉水清孝（研究代表者）「イン

「インドのテキスト解釈学における文脈理論の基礎的研究」課題番号 17520042,
3,600,000 円 (2008 年度までの 4 年間総額)

2007 年度－2010 年度 科学研究費補助金基盤研究 (B), 後藤敏文 (研究代表者)
「リグヴェーダ翻訳研究」課題番号 19320009, 2,990,000 円 (2007 年度分),
2,730,000 円 (2008 年度分).

(2) その他

なし

V 教員による社会貢献 (2004 年度～2008 年度)

後藤敏文 「インド・ヨーロッパ語族 概観と人類史理解へ向けての課題点検
－」, ミニシンポジウム「ユーラシア言語史の現在」(総合地球環境学
研究所プロジェクト「ユーラシア生活誌を基礎とする歴史環境学の構築
－〈人間－自然〉関係の解明」, 木下鉄矢教授主催), 京都(総合地球
環境学研究所) 2004 年 7 月 3 日－7 月 4 日.

後藤敏文 「『業と輪廻』の成立過程を追って」北海道印度哲学仏教学会公開
講演, 北海道大学, 2006 年 9 月 30 日

後藤敏文 「インドのことばとヨーロッパのことば」, 有備館講座第 4 期「世界
の言語」大崎市岩出山スコアハウス, 2007 年 2 月 17 日

桜井宗信 「インド仏教研究と河口慧海」, 栃木県立栃木高校(出張講義講師),
2006 年 3 月

桜井宗信 「インド仏教学」真言宗智山派伝法院(非常勤教授), 2006 年 8 月
～2008 年 7 月(予定)

桜井宗信 「インド仏教史研究紹介」, 宮城県立仙台第一高校(出張講義講師),
2006 年 11 月

桜井宗信 「古代インドにおける『人生の目的』」, 第 4 期有備館講座東北大
学大学院文学研究科市民のための公開セミナー講師, 2007(平成 19)年 9
月

桜井宗信 真言宗智山派伝法院客員講師: 「インド仏教学」. 2008(平成 20)年
6 月－現在 (※「『悪趣浄化タントラ』チベット語訳校訂テキスト整
定」という研究会を主宰し年 3 回の例会を開催)

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2004 年度～2008 年度)

後藤敏文

日本印度学仏教学会評議員	1991 年度－現在
日本印度学仏教学会理事	1991 年度－1996 年度, 2002 年度－現在
日本仏教学会理事	1991 年度－1996 年度, 2002 年度－2004 年度
印度学宗教学会常務理事	1997 年度－現在
印度学宗教学会会長	2004 年度－2005 年度, 2008 年度－現在
インド思想史学会理事	1993 年度－現在
Indogermanische Gesellschaft, Beirat (印欧語学会, 顧問)	2004 年 11 月－現在
日本印度学仏教学会理事学会誌ワーキンググループ委員	2005 年－2006 年
Mitglied des Münchener Sprachwissenschaftlichen Studienkreises	2000 年－現在

桜井宗信

日本印度学仏教学会評議員	1999 年度－現在
印度学宗教学会常務理事	1999 年度－現在
日本仏教学会理事	2005 年度－現在
仏教思想学会評議員	2006 年度－現在
日本西蔵学会委員	2006 年度－現在

吉水清孝

インド思想史学会評議員	2001 年度－2005 年度
インド思想史学会理事	2005 年度－現在
印度学宗教学会常務理事	2008 年度－現在
北海道印度学仏教学会評議員	1997 年度－2002 年度, 2007 年度－現在
北海道印度学仏教学会理事	2003 年度－2006 年度

Ⅶ 教員の教育活動（2008 年度）

(1) 学内授業担当

1 大学院授業担当

後藤敏文 教授

インド学特論Ⅰ	リグヴェーダ選
インド学特論Ⅱ	リグヴェーダ選
インド学研究演習Ⅰ	サンスクリット文学選（バルトリハリ作「離欲百詩」）

インド学研究演習Ⅱ ブラーフマナ選「祭主の章」

桜井宗信 教授

インド仏教史特論Ⅰ *bSod nams rtse mo* 著『タントラ概論』の原典講読

インド仏教史特論Ⅱ *bSod nams rtse mo* 著『タントラ概論』の原典講読

インド仏教史研究演習Ⅰ 梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読

インド仏教史研究演習Ⅱ 梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読

吉水清孝 准教授

インド学特論Ⅰ ヒンドゥー法典研究

インド学特論Ⅱ ミーマンサー学派研究

インド学研究演習Ⅰ ヒンドゥー教神話文献講読 (*Mahābhārata*)

インド学研究演習Ⅱ ヒンドゥー教神話文献講読 (*Viṣṇusmṛti*)

2 学部授業担当

後藤敏文教授

インド学概論（前期） ヴェーダ文献のことばと思想「リグヴェーダからブラ
ーフマナへ」

インド学演習（前期） サンスクリット文学選（バルトリハリ作「離欲百詩」）

インド学演習（後期） ブラーフマナ選「祭主の章」

パーリ語（前期） パーリ語入門

パーリ語（後期） パーリ語講読

桜井宗信教授

インド仏教史概論（前期） インド仏教史概説ーその1

インド仏教史概論（後期） インド仏教史概説ーその2

チベット語（前期） 古典チベット語初級文法Ⅰ

チベット語（後期） 古典チベット語初級文法Ⅱ

インド仏教史各論（前期） *bSod nams rtse mo* 著『タントラ概論』の原典講読

インド仏教史各論（後期） *bSod nams rtse mo* 著『タントラ概論』の原典講読

インド仏教史演習（前期） 梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読

インド仏教史演習（後期） 梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読

吉水清孝 准教授

インド学概論（後期）	インド哲学とヒンドゥー教
インド学基礎演習（前期）	ヒンドゥー教文献入門（ <i>Bhagavadgītā</i> ）
インド学演習（前期）	ヒンドゥー教神話文献講読（ <i>Mahābhārata</i> ）
インド学演習（後期）	ヒンドゥー教神話文献講読（ <i>Viṣṇusmṛti</i> ）

3 共通科目・全学科目授業担当

吉水清孝 准教授

人文社会科学総論 インド学仏教史専修分1 齣

(2) 他大学への出講（2004～2008 年度）

後藤敏文 教授

宮城学院女子大学非常勤講師（2001 年度－2005 年度）
総合地球環境学研究所共同研究員（2004 年 6 月－現在）
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員（2004 年度－現在）
大谷大学非常勤講師（2005 年度）
北海道大学大学院非常勤講師（2006 年度）
京都大学人文科学研究所研究班班員（1995 年度－現在）

桜井宗信 教授

名古屋大学大学院非常勤講師（2006 年度）

吉水清孝 准教授

名古屋大学大学院非常勤講師（2004 年度）
東北大学大学院非常勤講師（2006 年度）